

明るいまち・元気なまち・みんなのまち啓成

けいせいかかわの版

平成29年5月号

啓成公民館

米子市博労町4丁目364

TEL 33-9075

Fax 33-9083

(E-mail)

kei jyoh@chukai.ne.jp

啓成がくゆう会

第3回 人権講座

演題 「社会的養護について」

— 喜多原学園の役割 —

日程 5月9日(火) 13時30分~

講師 前喜多原学園 園長 馬詰 俊哉 氏



第4回 健康講座

演題 「あなたの足腰から健康寿命をのばそう」

—ロコモティブシンドロームの予防—

日程 6月1日(木) 13時30分~

講師 根津整形外科院 院長 根津 勝 氏

【よもやま話】

久かたの 光のどけき 春の日に
しづ心なく 花の散るらば

(紀 友則)

古来、日本では「花」といえば「桜」。さて、この「桜」について、強心に残る記事を今から一年ほど前(目)にしたことがあります。それは、鳥取市の桜並木の名所「袋川土手」の話。実は昭和二十七年四月十七日の鳥取大火の際、この土手の桜も残らず焼け焦けてしまったのだそうです。

ところがそれから九年も経った昭和三十六年のある日、鳥取市長苑に匿名の個人から、桜の苗木が百本届きました。するとそれから毎年にもわたり、八年間に八百本(!!)もの桜の苗木が・・・。

送り主は、学生時代を鳥取市で過ごした京都のSさん。若いSさんは、自分を癒やし慰めてくれた桜土手が、或る時全く無くなってしまったのを目の当たりにし呆然となり、その後「桜の木を鳥取に贈ろう」と決意されたそうです。そのため、わずかな給料からお金を工面し、時には保険を解約してまでも送り続けられたこの記事でした(H2005.5.

9 日本海新聞)。

ああ、全く神のよつた方ですねえ・・・。こうした方が、この世にはたくさんおられるのでしょぅ。。。桜の季節は過ぎましたが、その念は米子の花にシン「の世替わぬ。